

かにすることはできなかつた。今回の資料から、モンテペルデ自身が、スマイルズ (Samuel Smiles) 著の "Self Help" のジェンナーの項を読んで感動し、自分の息子として製作したものと見做すべきであることがわかつた。私は、わが国に伝えられてきた「ジェンナーは、先ずわが子に牛痘種痘法を試みた。」という物語りは、上述の "Self Help" の訳書である「西国立志編」に由来することを報告したが (日本医史学雑誌第二六卷一号一九八〇年)、モンテペルデのジェンナー像とその説明文が、わが国の物語りの背景の一つをなしていたことも考えられる。

(大阪大学微生物病研究所)

ウトレヒト陸軍軍医学校テキ スト、フレスの解剖書とそ の日本への伝播

○石¹⁾ 田 純 郎

²⁾ ハルム・ボイケルス

明治三年春より一年間岡山藩医学館の教師を勤めたオランダ医師ロイトルが残した解剖学講義録のオリジナルの調査を昨年秋ライデン大学で行つた。その結果オリジナルが判明したが、現在迄に日本各地に九種二十冊の同一のオリジナルをもつ講義録・本が保存されていることが判明した。項目や説明の順序と内容、図等をオリジナルを探す手掛りとした。

オリジナルは Joseph Alexander Fles (1819—?) (マッヘト大学教授) 著 *Handleiding tot de Selschmatig Beschrijvinge Onleedekunde van den Mensch* (以後フレス本と略す。)と判明した。初版は一八五五年、二版は一八六六年に出版された。第二版は七九一頁の印刷本で図表は二四六枚

る。ウトレヒト陸軍軍医学校の教科書であった。オランダの医書は当時ラテン語やギリシャ語で書かれたものが多かったが、それらの本では軍医の促成栽培が困難であったため、一八四〇年から一八六〇年にかけて十八冊のオランダ語の教科書がウトレヒト陸軍軍医学校用に出版された。フランス本はこのシリーズの四番目の本である。一九四五年現在日本では岡山大、金沢大、慶応大、九州大、長崎大、大阪大に保存されていた。フランス本の出版以後、ウトレヒト陸軍軍医学校に在学、あるいは教官として働き、その後来日した医師には、ボードイン、ハラタマ、ヨング、レーウエン、ブッケマ、ロイトルがあり、また出版直前に同校を卒業した者にボンペ、スロイスがおる。

フランス本をオリジナルとした講義録、刊本は次の通り。

① フ列斯解剖論（大坂医学校→東京医大蔵）緒方惟準が一八六八年に講義したノートの写本。原本の三九八頁から四一四頁及び四四六頁から四五一頁に相当するが、ほんの断片である。

② 満氏解剖学（出所不明→順天堂大山崎文庫蔵）フリスフル 満私馱ル多の講義録。年代と講義場所は不明。第一卷骨学から第六

卷神経学迄の全六卷。原本のほぼ全頁にわたる抄訳。

③ 解剖記聞（岡山藩医学館→岡山大蔵）ロイトル 魯依篤兒口述高橋鼎蔵訳 一八七〇年七月、二冊の木版本として刊行。原本の八三頁迄の抄訳で、骨学の一部のみ。

④ 解剖学講義録（岡山藩医学館→岡山大学蔵）生田安宅の筆記本。一八七〇年。筋学、内臓学その二の二冊のみ現存。アウエルバッハの神経叢についても記載されている。これはフランス本の第一版になく、第二版にのみ収載されている。従って岡山のロイトルの講義は第二版がオリジナルであった。また岡山大には現在四冊のフランス本が保存されている。いつの頃のものかわからないが、その表紙には十九冊の何番と記されており、この本が明治初期に相当大量に買われたことを示している。

⑤ 解剖学（金沢県医学館→金沢市立図書館蔵）スロイス 斯魯伊私口述、藤本純吉の筆記本。上中下の三冊。一八七一年。原本のほぼ全頁にわたる抄訳だが、九種の中で最も詳しく良い。ラテン語、オランダ語の併記もあり、原本と全く一致する精密図も五図ある。アウエルバッハの神経叢については触れず。

⑥ フレス氏解剖学（金沢病院↓慶応大富士川文庫蔵）山内計二の一八七七年の写本。スロイス本の写本か？巻の四のみ現存。内臓学の一部。原本の二九一頁から三七四頁迄の抄訳であるが、内容の詳しさに著しいむらがある。

⑦ 系統記載解剖学（金沢病院↓慶応大富士川文庫蔵）巻四内臓部解剖、巻六神経部解剖のみ現存。一八七七年四月三日より七八年九月二四日迄の講義本。ホルテルマンの講義か？山内計二の筆記本。巻四は原本の二九一頁から五十九頁迄、巻六は六五〇頁から七六〇頁迄の抄訳。⑤にも似るが、テニオハはこちらの方が整っている。

⑧ フレス氏解剖略論（出所不明↓順天堂大山崎文庫蔵）東京坪井芳洲翻訳の講義本。年代不明。現在には上巻骨学、巻二関節学を合冊にして一冊となっている。原本の一頁から一六八頁迄の抄訳。奇妙なことに同一装丁の巻二の筋肉の部から巻四の動脈の部のオリジナルは別の本である。

⑨ フレス私解剖図譜（思々斎蔵より刊行）中欽哉訳述。一八七二年刊。アトラス篇、図の説明篇よりなる。フレス本第二版の図二四六のほとんどが忠実に複製される。前記の八種の本、講義録にほとんど図がなく、それを補充する意

味があった。全国各地に現存。

抄録提出後、長崎、熊本、大阪、京都も調査する予定であり、若干の追加が見込まれる。なおポンペの解剖学は、フレス本がオリジナルではない。

- 1) 三菱水島病院小児科
- 2) ライデン大学医史学